

学校名	東広島市立黒瀬中学校
校長名	了安 峻
所在地	東広島市黒瀬町丸山82番地の1
H P	Kurose-chu@city.higashihirosima.hiroshima.jp
学級数	25学級
タイプ	○ .

1 研究の概要

(1) 研究主題

豊かな人間性を基盤とする中で、論理的思考力を使ったコミュニケーション能力を育てる

- 「音読」と「言語技術」を「ことばの教育」の両輪として-

(2) 研究のねらい

本校の「ことばの教育」は「音読」と「言語技術」の二本柱とする。

「音読」

美しい日本のことば、こころ、文化にふれ、豊かな人間性を育てる。

美しい日本のことば・こころ・文化にふれ、感性を磨き、表現力を高め、豊かな人間性を育てる。

多くの優れた文学・名文に触れることにより、語彙力・文章力を磨き豊かな表現力を形成させる。

一日のスタートを整然とした音読タイムから始めることにより、心を落ち着け清新な気持ちで規律ある学校生活を送る。

「言語技術」

論理的思考力を身につけ、自らの思いをことばでわかりやすく表現する力を育てる。

自分の意見を筋道を立てて表現し、相手の意見にも耳を傾けることができる力を育てる。

目的・意図が十分に果たせるように、相手や自分が置かれた状況に応じてわかりやすく表現できる力を育てる。

受け取った情報を論理的に分析し、その情報をもとに自らの意見を深めることができる力を育てる。

(3) 研究組織・体制

音読を推進するために校長・教頭・国語部会の教員・パイロット教員・学年主任・研究主任・教務主任・生徒会担当からなる「ことばの教育委員会」を組織する。教材や発表会は「ことばの教育委員会」が作成、企画する。全教職員の指導による音読タイムを毎朝行う。計画的に評価の場として発表会を設け、生徒の意欲向上を図る。

言語技術を推進するために校長・教頭・パイロット教員・教科パイロット・学年主任・研究主任・教務主任・生徒会担当からなる「ことばの教育委員会」を組織する。「言語の時間」を通して直接的に言語技術を指導する時間を

もつ。各教科で言語技術を使った指導を行う。

「ことばの教育」に関する研修会を教職員で年間通して行う。

2 2年間の取組みの概要

「音読」

朝のSHR後、全クラス一斉の音読タイムを設けた。

音読教材は、各学年に応じたものを使用した。

生徒が意欲をもって取り組めるように、定期的に学年毎に音読発表会を設けた。音読の発表会では各クラスで群読に挑戦するなど工夫した。

全校発表の場として、文化祭では全校有志(300名)による群読を行った。また、卒業式では在校生全員による群読発表、生徒自ら作成した答辞を群読した。

音読教材表

月	1年	2年	3年
4 5	黒瀬中学校校歌 早口ことば1 寿限無(落語) 春の七草・十二支・月の名前	黒瀬中学校校歌 早口ことば2 外郎売り(歌舞伎) 春の七草・十二支・月の名前	黒瀬中学校校歌 早口ことば2 外郎売り(歌舞伎) 春の七草・十二支・月の名前
6 7	教室はまちがうところだ ひとつしかないいのちだから前へ かっぱ(群読)	世界は一冊の本 夕焼け 自分の感受性く らい あめ(群読)	生きる わたしになにか できることはな いか 永訣の朝 一個の人間
9	わたしと小鳥と すずと 竹取物語 ごんぎつね	徒然草 枕草子 平家物語序文	われは草なり 平家物語序文 平家物語扇の的
10 11	ごんぎつね(群 読) 合唱コンクール 蜘蛛の糸 注文の多い料理 店	平家物語(群 読) 合唱コンクール 赤いろうそくと 人魚	平家物語(群 読) 合唱コンクール おくの細道序文
12	百人一首	百人一首	百人一首
1 2	百人一首 おくの細道立石 寺 巢立ち 巢立ち(群読)	百人一首 おくの細道立石 寺 巢立ち 巢立ち(群読)	百人一首 おくの細道立石 寺 不思議 答辞(群読)
3	巢立ち(群読) 偶成 ゆずりは	巢立ち(群読) 論語 ゆずりは	答辞(群読)

「言語技術」

「言語の時間」を1週間に1時間設置した。ただし1年生は通年、2年生は前期、3年生は後期とした。

言語の時間教材表

単元	付けたい力
問答ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・結論先行 ・根拠を具体的にもつ ・ナンバリングを使う ・5W1Hを明確にする ・事実と意見を区別する ・主語を明らかにする
再話	<ul style="list-style-type: none"> ・主語を意識する ・メモを取りながら聞く ・原稿用紙を適切に使う
描写説明	<ul style="list-style-type: none"> ・段落を「概要・内容・まとめ」で構成する ・説明の順所に規則性をもたせる ・説明に客観性をもたせる ・一文一義で文章を書く ・比喩を効果的に使う ・大きな情報から小さな情報を説明する ・情報を取捨選択する ・ラベリングを情報整理に使う ・優先順位を考えて説明する ・5W1Hを明確にする
絵の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・結論先行 ・根拠を明らかにして分析する ・根拠に具体性をもたせる ・大きな情報から小さな情報を説明する
視点を変える	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的にとらえる

各教科で教科のねらいを達成するために言語技術を活用した。年間指導計画(シラバス)には言語技術を明記した。言語技術を活用した授業公開を計42回行い協議を行った。指導案の学習過程(学習の展開)にも活用した言語技術の欄を設けた。また全教科の定期テストにも言語技術を活用する問題を必ず1題盛り込んだ。

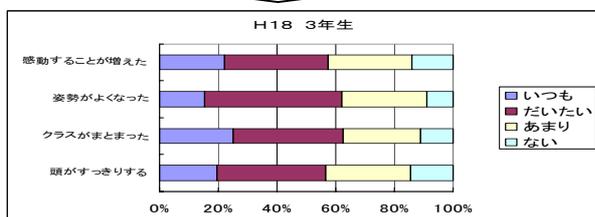
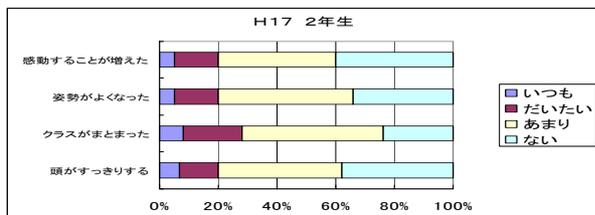
全教職員の言語技術研修を行った。具体的には職員室に「ことばの教育文庫」を設置し、2年間で22回の言語技術校内研修を行い、「黒瀬中学校ことばの教育冊子」を作成した。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

「音読」

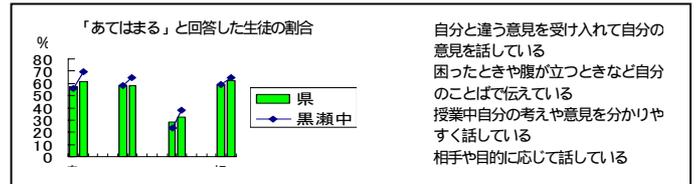
生徒による自己分析



- ・今まで見逃していたような些細なことに対して心を動かされるようになったと感じる生徒が増えた。
- ・毎朝の音読は美しい姿勢や活気をクラスに与え、気持ちのよい1日のスタートを生徒に与えた。
 教員による生徒観
- ・大きな声で発言する生徒が増えた。
- ・堂々と主張できる生徒が増えた。
- ・音読する時ことば1つ1つを大切にできるようになった。

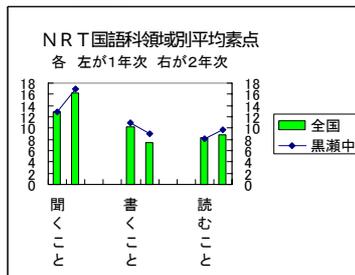
「言語技術」

「基礎・基本」定着状況調査



- ・自らの考えを批判的に捉え、よりよく考えようとする態度が養われた。
- ・ことばによって自らの考えや思いを具体的に表現し、整理しながら発言する態度が身についた。

NRT



- ・国語科については読むことに関しては全国平均の伸び率を上回った。
- ・書くことに関しては全国平均の下降に比べて緩やかであった。
- ・言語技術で批判的思考力を働かせるには、人の話を聞き思考を巡らせなければならない。コミュニケーション能力の向上が学力の向上と結びついているといえる。

指導力に関する教職員の变容

- ・わかりやすい授業を構築するための工夫をしたり、答えだけでなく思考する過程を大事にする授業を構築したりするようになった。
- ・根拠を求めることで定着を図るようになった。

(2) 課題

「音読」

聞き手を意識し感情を込めて表現する指導方法を研究する。発表を学年発表という限られた枠に留めず、発表することの喜びを味わうことのできるものにする。生徒の感性を磨くことのできる教材や指導法の開発を推進する。

「言語技術」

あらゆる教育活動の場で、言語技術を使える場を設定する。とくに、授業においては、各教科のねらいを達成するために、すべての教員が言語技術を活用して指導できるようにする。言語技術の手法を習得した後、場に応じたことばの使い方を適切に選ぶ力を身につける。